

偉人鳩摩羅什

吉田 鍊 正

「總じて月支より漢土に經論を渡す人舊譯新譯に一百八十七人也羅什一人を除いては何れの人々も誤らざるはなし」(縮一二〇九)と宗祖が羅什所譯の經論に絶對的價値を與へた事は一に舌根不燒の逸事に外ならぬと拜せられる。蓋し宗祖のみならず各宗の祖師がその所依の經論を定むるに多く羅什譯出のものを用ひしを見て知る事が出来る。

今各宗所依の經論中羅什所譯に依らざるは俱舍法相眞言の三宗位ひにして他は羅什所譯に依らざるはなし。淨土宗にては三經一論とて大無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經、及び天親所造の往生淨土論を正所依とし、此中阿彌陀經は即ち羅什の所譯にして弘始四年(AD302)二月の譯出して此の前年師は長安に來れり。又廣く淨土教の見地よりすれば傍明淨土とてその經論の傍説として淨土を説ける經論二百余部中羅什譯出のもの

法ヶ經 第七 思益梵天所問經 第一 維摩經 第三 諸法無行經 第一 思惟要畧經十住毘婆娑論大論

等なり。又阿彌陀經譯出の結果師の門下に及せる影響としては僧叡(AD370—430)の如き「常に西方往生を願樂す」(高僧傳六)又惠嚴(AD—442)の如きは「西方の行者」と名乗る等相當門下中に流行したり。次に華嚴宗の六十華嚴は佛駄跋陀羅即ち覺賢(AD359—429)が東晉元熙二(AD420)年に譯出したるものなりと雖その十地品は羅什が弘始十四(AD412)年佛駄耶舎と共譯したる十住經をその儘取入れたるものにして、當時如何に羅什の名聲の高かりしかを證するものたるべし。故に師の門下に於ても華嚴經それ自身の講學はなきも、十住經の研究は法業曇斌道融等の諸師あり

法業最も冠たる者の如く「乃請譯レ經親從_{シテ}筆受撰_ニ旨歸兩卷_ニ見行_ニ於世_ニ」(華嚴傳)と云ふ、蓋し華嚴註釋の始めならん。次に三論成實の二宗に付て見るに、凡そ師の譯出聖典中師の學統として現れしは此の二宗也、此の二宗は大小の異なるも、成實は三論の付宗として研究せられし所以は、所詮の理が共に空なる事、彼の俱舍法相に於て大小の別あるも有を所詮とする如く、又譯出が羅什の手に成れる事、俱舍法相に於てその譯者が玄奘(AD600—664)なる如き故也。三論とは龍樹所造の十二門論及中論(共に弘始十一年西紀四〇九譯出)と提婆所造の百論(弘始六年西紀四〇四譯)との三を所依とす。又成實論は訶梨跋摩所造にして本論の譯成るや翌年(弘始一五AD413)師は幾多の功績を残し寂したるものなれば晩年の譯なりと謂可し。門下の註疏には中論に曇影ノ註及序あり、十二門論には僧叡、百論には僧肇(AD384—414)各々序を製し同門僧導には三論義疏の著あり、成實論には僧叡曇影僧導の三師最も關係深かりしが如し。次に天台宗に付て見れば天台の三大部及菩薩戒疏等よりして、天台宗所依經論中羅什譯出なるもの次の如し。

法ヶ經 出三藏記集に依れば「弘始八年(AD386)夏於長安大寺譯出」とあり。門下の講學に付ては道融(法ヶ)道生(法ヶ)曇影(法ヶ)義疏(法ヶ)慧觀(AD380—450)(法ヶ)僧叡(法ヶ)後序(法ヶ)等の師の著すものあり。

大品般若經 僧叡の序に依るに弘始五年(AD403)の譯出にして此の間奏王臨御し五百の義學席を列すとあれば一大繪卷物の如き狀ありしならん。門下の註には前出の僧叡の序道融の疏あり。

梵網經 此經は竺佛念譯の纏絡本業經曇無讖譯の持地經と共に支那大乘戒の三大聖典とも言ふべきものにして歴代三寶記八、開元錄四等に依るに弘始八(AD406)年の譯出にして「此の時道融等三百余人菩薩戒を受け各々此經を誦し且此經八十一經を寫し世に流通す」とあり門下にては僧肇疏を著す。

大智度論 大品般若の釋論にし僧叡の大品序に依ると「文雖粗定_ニ以釋論(大論)_ニ檢_レ此猶聞不盡、是以隨_レ出_ニ其

論「隨而正」此、釋論既訖乃文定」故に本論の譯なると同時に眞の意味に於ける大品の譯も完了したるもの也。

尙天台宗にては什譯を依用するのみならず傳教「菩薩戒相承譜」中に逸聞菩薩と惠思との間に羅什を加へり。

日蓮宗師の妙法華を正所依とする事は宗祖が羅什に對する景仰の表れ也。即ち譯者の取捨に付ては「余が第一の秘事也」(一二〇九)と仰せられ又「羅什一人除いては何れの人も誤らざるはなし(同上)とて羅什譯出聖典に絶對價値を與へてゐるは一に舌根不燒の逸事に依り給へるなり。(五五七)(一二〇九)(一九六八)(二〇二三)

尙此外律の發展史上に影響を及せる事はその門下に十誦律の學者として僧業曇斌惠詢等あり又大乘戒に付ては前述の梵綱經あり。故に俱舍法相眞言を除いては師の譯出聖典に依らざる宗なし。今此をその數量に於て他の四大譯家に比するに玄奘に次ぐと雖(開元錄に依る)

羅什 七四部 三八四卷

眞諦 四九部 一四二卷

玄奘 七六部 一三四七卷

不空 七七部 一二四卷

その影響を及せる範圍の廣大なること譯經三藏中隨一と稱すべし、憶呼偉哉鳩摩羅什。